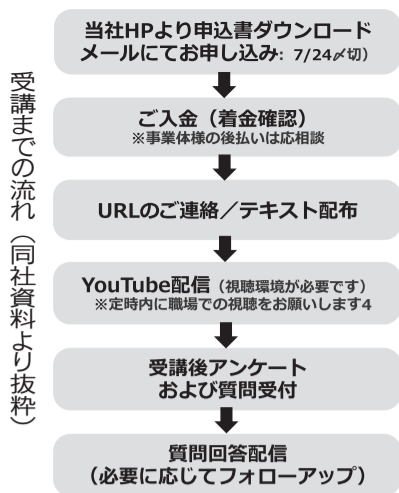


オンライン水道研修開始へ

横浜ウォーター 3テーマで8・9月に配信

横浜ウォーター（鈴木慎哉社長）はこのほど、同社主催の水道研修についてオンラインで実施することを明らかにした。同社では、前期（春）、後期（秋）と年に2回研修事業を展開しているが、今年の前期については新型コロナウイルスの影響で中止・一部延期を余儀なくされており、「水道事業体の皆さまからの強い要望にお応えするため」（鈴木社長）オンライン方式により実施することとしたもの。



影響で中止・一部延期を余儀なくされており、「水道事業体の皆さまからの強い要望にお応えするため」（鈴木社長）オンライン方式により実施することとしたもの。

今回、オンラインで実施する研修は、▽講座1「水道工事施工監理」（114分）▽講座2「給水装置」（110分）▽講座3「水運用」（184分）の人気の高い3講座。講師はいずれも横浜水道局で長年関係業務

に携わってきた社内において「神さま」と称される高いスキル・ノウハウを保有するベテラン技術者。工事・建設・配水部門で設計・施工監理、人材開発課で技術研修も担当した同社上下水道部上水道企画室の中井一雄氏

の講座1では、技術者倫理をはじめ、工事完成検査、施工計画書、施工監理の4つの講義を配信。講座2の講師を務めるプロジェクト統括部アセツトマネジメント推進室の

竹内孝志氏は、配水管漏水修繕の維持管理や給水装置工事給水審査、完了検査に長年携わり、給水装置工事主任技術者資格取得研修の講師を務めるなど給水装置分野に造詣が深い。講座では給水装置総論に始まり、事故事例、計画論、施工、主な給水管・給水用具の5講義を配信する。配水池・隧道などの拡張整備や大口径管の設計・施工監理を経て長年水運用業務に従事し、横浜水道の水運用の生き字引的存在だった上下水道部上水道企画室の佐藤均了氏が講師を

務める講座3では、まず、水道施設構成や配水方式について説明され、さらに断水操作、充水・耐圧試験、洗浄、消防水利、弁バルブ操作、事故事例など9つの講義を配信予定。

申し込み開始は7月1日、締め切りは7月24日。別表のような流れで申し込みを行い、8月25日及び9月2・3日の9・17時に配信される。申し込みは同社ホームページにアクセス。

なお、研修の受講料金は事業体が給水人口規模(2020年3月現在)、民間企業は売り上げ規模(2019年度)によって価格帯が設定されており、事業体については人口30〜50万人では講座1と2がそれぞれ3万3000円、講座3は4万9500円で、3本セットは9万2400円。このほか、10〜30万人、3〜10万人、3万人以下の規模に応じてそれぞれ価格が定められている。企業については、売上高10億円以下と10億円以上の企業でそれぞれ価格が設定されている。また、オーダーメイド型オンライン研修についても相談に応

じるという。同社の鈴木社長は、「水道部局に初めて着任された事務・技術職員や水道技術に磨きをかけたい職員、さらには給水装置工事・配水管理に従事される民間企業等の技術者育成・継承、研鑽の良い機会にも新たな研修事業への意欲を示している。

た、遠方ゆえに通常の研修への参加が難しい方にもお薦めしたい」とこの新たな研修事業への意欲を示している。

社長に鈴木取締役

横浜ウォーター



鈴木社長

横浜ウォーターの代表取締役社長に、6月24日付で取締役の鈴木慎哉（すずき・しんや）氏が就

任した。五十川健郎・社長は同日付で退任した。

鈴木氏は、プラント

メーカーで水処理・廃棄物処理・新エネルギーなどの環境プラントの提案、受注、事業投資、運営などに従事し、金融機関に転職後は国内外の環境エネルギー事業や水事業の投融资などを手掛けた。平成24年8月、横浜ウォーターに営業部長と

して入社、初年度から宮城・山元町をはじめとした自治体、海外プロジェクト、民間企業からの受注に成功し、さまざまな支援スキームを構築した。26年6月には取締役就任し、積極的なパートナーシップの推進や国内外プロジェクトの形成、新規事業の創出など同社の事業拡大に尽力してきた。